

病害虫発生予察情報 第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

5月の病害虫発生予報

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期		
水稲	イネミズソウムシ	やや多い	やや早い	果樹	りんご	キンモンホソガ	並	-	
	イネドロオイムシ	並	やや早い			アブラムシ類	やや多い	並	
	イネゾウムシ	並	やや早い		日本なし	黒星病	少ない	並	
大麦	うどんこ病	並	-			ナシヒメシンクイ	やや多い	-	
大豆	タネバエ	並	並			ハマキムシ類	少ない	-	
	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	多い	やや早い			ハダニ類	やや多い	やや早い	
野菜	野菜全般	ネキリムシ類 (タマナヤガ)	多い		やや早い	ぶどう	黒とう病	少ない	並
	たまねぎ	べと病	やや多い		-		灰色かび病	少ない	並
		白色疫病	少ない		-		べと病	並	並
	白ねぎ	ネギアザミウマ	並		やや早い	もも	せん孔細菌病	やや少ない	並
								モモハモグリガ	少ない
果樹	りんご	黒星病	少ない		並	花き 球根	チューリップ	褐色斑点病	やや多い
		褐斑病	やや多い	並	球根腐敗病			やや多い	-
		うどんこ病	少ない	並	モザイク病			並	-
		ハダニ類	やや多い	やや早い	アブラムシ類			多い	-

I 水 稻

1 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発 生 量 : やや多い
 発生時期 : やや早い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年5月20日(被害盛期)の調査では、被害葉率が3.58%と平年(1.09%)より高かった。

【早発要因】

- ・3月及び4月上中旬の気温は高温だった(平年差:3月+3.4℃、4月上中旬+2.6℃)。また、5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられた圃場では、確実に育苗施薬剤等を使用する。
- ・防除指針:20~30、36ページ参照

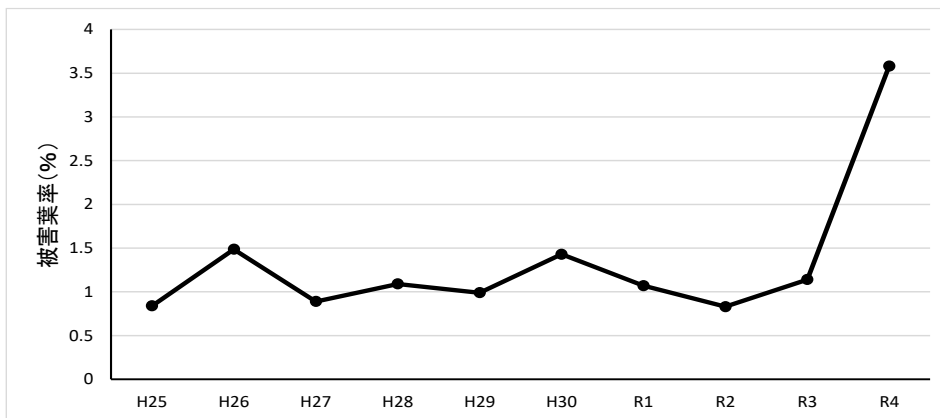


図1 イネミズゾウムシの被害葉率の年次推移

2 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発 生 量 : 並
 発生時期 : やや早い

(2) 予報の根拠

- ・前年6月5日(被害盛期)の調査では、被害葉率が0%で平年並み(0.00%)であった。

【早発要因】

- ・3月及び4月上中旬の気温は高温だった(平年差:3月+3.4℃、4月上中旬+2.6℃)。また、5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・前年度の発生が多くみられた圃場では、確実に育苗施薬剤等を使用する。

- ・防除指針：20～30、37 ページ参照

3 イネゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠
- ・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率が0.11%で平年（0.02%）であった。

【早発要因】

- ・3月及び4月上中旬の気温は高温だった（平年差：3月 +3.4℃、4月上中旬 +2.6℃）。また、5月の気温は、高いと予想されている。

- (3) 防除対策
- ・前年度の発生が多くみられた圃場では、確実に育苗施薬剤等を使用する。
 - ・防除指針：20～30、36 ページ参照

II 大 麦

1 うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・4月25日の調査では、発病度が1.1で平年（1.7）並であった。
- (3) 防除対策
- ・防除指針：50ページ参照

III 大 豆

1 タネバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・5月の降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
 - ・ほ場の排水に努める。
 - ・防除指針：53、55 ページ参照

2 ネキリムシ類（タマナヤガ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
 発生時期：やや早い

- (3) 防除対策
- ・発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・排水対策を徹底する。
 - ・防除指針：103ページ参照

4 たまねぎ・白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
 発生時期：やや早い
- (2) 予報の根拠
【早発要因】
- ・5月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・防除指針：白ねぎ100、タマネギ103～104ページ参照

IV 果樹

1 りんごの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
- ・前年の発生量は少なかった。
- (3) 防除対策
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除を実施する。
 - ・防除指針：137、139～141、145～146ページ参照

2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
- ・前年の発生量はやや多かった。
- (3) 防除対策
- ・前年に発生の多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除を実施する。
 - ・防除指針：137、139～141、145～146ページ参照

3 りんごのうどんこ病

- (1) 予報内容 発 生 量：少ない
 発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・り病枝、り病果（花）そうは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が 10 日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・防除指針：137、140～141、145～146 ページ参照

4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。
- ・5月の気温は高いと予想されている。

【早発要因】

- ・3月及び4月上中旬の気温は高温だった（平年差：3月 +3.4℃、4月上中旬 +2.6℃）。また、5月の気温は、高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：144～145、147 ページ参照

5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発 生 量：並

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月1～3半旬の誘殺数は、1.0頭で平年（0.6頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・被害が懸念される場合は、5月上旬頃を目途にコンフューザーAAを設置する。

・防除指針：137、142～143、146～147 ページ参照

6 りんごのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・前年の発生量はやや多かった。

(3) 防除対策

- ・発生の多い園地では、速やかにネオニコチノイド系殺虫剤又はトランスフォームフロアブル（2,000倍）を散布する。
- ・防除指針：137、143、146～147 ページ参照

7 日本なしの黒星病

(1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・前年の秋型病斑率は低く、本年3～4月の落葉処理園地での子のう胞子飛散量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・芽基部病斑、り病した葉や幼果は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・防除指針：149～153、156 ページ参照

8 日本なしのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・フェロモントラップによる4月1～3半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は、6.9頭で平年（2.9頭）よりやや多かった。

(3) 防除対策

- ・5月中下旬の防除を確実に実施する。
- ・防除指針：149、153～154、157～158ページ参照

9 日本なしのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・過去2か年みられていた開花期前後の食害花そうの発生は少なかった。

(3) 防除対策

- ・食害果（花）そう及び葉は、摘み取って処分する。
- ・第一世代幼虫発生時期（5月中下旬）の防除を徹底する。
- ・発生の多い園地では、ディアナ WDG（10,000倍）を散布する。
- ・防除指針：149、153～154、157～158 ページ参照

10 日本なしのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3月及び4月上中旬の気温は高温だった（平年差：3月 +3.4℃、4月上中旬 +2.6℃）。また、5月の気温は、高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを徹底し、下草での増殖の低減に努める。また、殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に殺ダニ剤を散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生期には園地の発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：155、157～158ページ参照

11 ぶどうの黒とう病

(1) 予報内容 発生量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

(3) 防除対策

- ・り病枝やり病葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。特に棚面の巻ひげは極力除去する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除

を実施する。

- ・防除指針：159～163ページ参照

1.2 ぶどうの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・開花前から棚面を明るくし、通気性をよくする。また、ハウス栽培では過湿にならないよう換気を行う。
- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・発生が多い園地では、フルピカフロアブル（2,000～3,000倍）を散布する。
- ・防除指針：159、161～163ページ参照

1.3 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・り病した花穂や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開き過ぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・発生が多い園地では、5月中旬のマンゼブ水和剤をリドミルゴールドMZ（1,000倍）に変更し散布する。
- ・防除指針：159～163ページ参照

1.4 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・春型枝病斑は見つけ次第除去し、処分する。

- ・発生が多い園地では、マイコシールド（1,500～3,000倍）又はバリダシン液剤5（500倍）を散布する。
- ・防除指針：170～172、174ページ参照

15 もものモモハモグリガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 【少発要因】
 ・前年の発生量は少なかった。
- (3) 防除対策
 ・発生が多い園地では、コンフューザーMMを設置する。
 ・防除指針：170、172～174ページ参照

IV 花き・球根

1 チューリップの褐色斑点病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 ・4月20日の予察ほ場（無防除）における発病株率は71.7%で平年（51.7%）よりやや多い。
- (3) 防除対策
 ・発病株の抜き取りを徹底する。
 ・摘花直後に殺菌剤を散布した後、定期的に防除する。
 ・防除指針：188 ページ参照

2 チューリップの球根腐敗病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
 【多発要因】
 ・植え付け時（10月上中旬）の地温が高めに推移した。
 ・一部で貯蔵中の種球に腐敗がやや多くみられた。
 ・5月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 ・発病株の抜き取りを徹底する。
 ・停滞水とならないようにほ場の排水に努める。

3 チューリップのモザイク病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は並であった。
- (3) 防除対策
 - ・モザイク病発病株の抜き取りを徹底し、アブラムシ類を定期的に防除する。
 - ・防除指針：189、207～208 ページ参照

4 チューリップのアブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**多い**
- (2) 予報の根拠
 - 【多発要因】
 - ・予察ほ場への有翅虫の初飛来日（3月30日）は、平年（4月20日）より21日早かった。
 - ・5月の気温は高いと予想されている。
- (3) 防除対策
 - ・ほ場周辺の除草対策または、雑草への殺虫剤散布を徹底する。
 - ・防除薬剤の定期的な散布とモザイク病発病株の抜き取りを徹底する。
 - ・防除指針：189、207～208 ページ参照

- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

北陸地方 3か月予報

(予報期間 5月から7月)

4月25日

新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

5月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	北陸地方	05月~07月	
		05月	
		06月	
		07月	
降水量	北陸地方	05月~07月	
		05月	
		06月	
		07月	

低い(少ない) 平年並 高い(多い)